

**ブイ・エス・エル・ジャパン**

(東京)

**土木建築構造物の性能を高めるVSL工法  
累計2000万本の販売実績「ヘッドバー」**

**ス**

イスのロージンガー社によって開発された、VSL工法が日本に導入されたのは、およそ40年前。

今では、大スパンの建築構造物や橋梁、アンカーなどの土木工事で活用される有力なPC(プレストレスト・コンクリート)定着工法として、日本のインフラ施設を支えている。

「橋梁などを支えるピアノ線ケーブルを定着させる方法のVSL工法は、高い安全性と経済性が認められ、世界的に普及しています」と話すのは、日本にお



藤原 基文 社長

るVSL工法の独占実施権を所有する、ブイ・エス・エル・ジャパン株式会社の藤原基文社長だ。

同社は、世界35カ国以上に現地法人を持つスイスのVSLインターナショナル社と日本のスーパーゼネコンを含むPC事業者、合わせて18社が出資して1987年に設立。VSL工法の装置や機材の製造から販売・リース、技術指導までを行い、国内での統括管理と普及拡大に努めている。

「使用する定着金具も極めて精巧に作られており、保管する際にも細心の注意が必要で、製品だけでなく、技術というソフトも一緒に提供することを心掛け、現場での品質管理の重要性を啓蒙し、継続的な技術の伝承をサポートしていきたい

と思います」(藤原社長) また、VSL工法の他にも、多様化する時代のニーズに応える新たな技術・製品にも力を入れる同社。中でも、1999年から販売するプレート定着型せん断補強鉄筋「ヘッドバー」は、阪神大震災の被害を受けた関西地区で人気が出火を切り、累計販売本数が2000万本を突破する勢いだ。

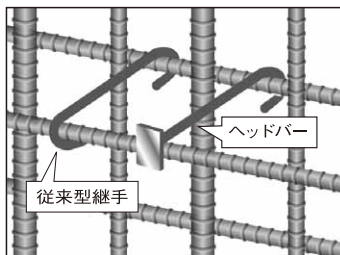
高速回転させたプレートを鉄筋に押し付け、摩擦圧接によってプレートと鉄筋を完全に一体化させた「ヘッドバー」。高い定着性能によって構造物の耐久性を高めるだけでなく、これまで使用されていた両端フック型と比べ、配筋作業が単純化・省力化される。

また、既設構造物の耐震補強に威力を発揮する、後

施工プレート定着型せん断補強鉄筋「ポストヘッドバー」も注力製品の1つだ。新技術で建築分野にも進出 独自の工法はあの建物にも!



VSL工法が橋梁の安定性を支える



鉄筋組立て作業を簡素化する「ヘッドバー」

同社は、土木分野における「ヘッドバー」の豊富な納入実績と技術力・生産体制を生かし、4月から建築市場にも提供を開始する。

鉄筋を折り曲げて柱や梁に定着させる従来の定着方法と比べ、「ヘッドバー」を使用することで、鉄筋が過密に組み込まれていた柱と梁の接合部を簡素化。折り曲げ部分に使用する鉄の量が減るため、資源の抑制とコスト削減にもつながるとい

「会社データ」  
本社 東京都新宿区西新宿3-2-26 立花新宿ビル5階  
☎ 03-3346-8913  
設立 1987年7月  
資本金 1億円  
事業内容 VSL工法及び関連技術の実施指導、機器装置の販売  
http://www.vsl-japan.co.jp